

# 障害福祉サービス事業所PR！ プレゼンテーションの場を提供します ～ 宿泊型自立訓練編 ～



春の暖かさが待ち遠しい平成 30 年 1 月 18 日（木）に今回の研究会が開催されました。テーマは「障害福祉サービス事業所PR！プレゼンテーションの場を提供します～ 宿泊型自立訓練編～」でした。

プレゼンテーションの前に、北九州市保健福祉局障害者支援課 障害者相談支援係 木村 智久係長から、「障害福祉サービス（自立訓練給付）における自立訓練の位置付け」「自立訓練の内容」「宿泊型自立訓練の対象者」「県内自立訓練事業所の状況」等、宿泊型自立訓練の概要について説明して頂きました。「他の事業に比べて数が少なく、福岡県内に 10 か所ある内、市内に 5 事業所あるので北九州市は割と充実しているのでは」とのことでした。

最初は“多機能型指定障害福祉サービス事業所インクル春ヶ丘”事業所長 水口 佐代さんです。インクル春ヶ丘を始め、飛翔館、インクル八千代は“社会福祉法人 北九州市手をつなぐ育成会”が運営しており、水口さんからは、法人紹介と 3 事業所で共通している支援事業内容とインクル春ヶ丘の事業所紹介をして頂きました。

引き続き“指定宿泊型自立訓練事業所 障害者自立訓練施設 飛翔館施設長 田中 英親さん”“障害福祉サービス多機能型事業所 インクル八千代 事業所長 長田 雅行さん”“多機能型事業所 自立支援 あろうだ 管理者 河津 誠さん”からも事業所紹介をして頂きました。

それぞれみなさんから、施設概要、利用者状況、主な利用経緯、支援プログラム等を、写真を交えてプレゼンテーションをして頂きましたが、それぞれの特色が出て興味深く聴くことが出来ました。

共通するところとしては、「事業所内での目標やルールがきちんと定められているが、自分たちで考えていくことを大切にすること」「余暇支援を大切にすること」「家族や事業所との関係だけでなく、地域の人との交流を大切にすること」等があげられるようです。

課題としては「学校を卒業して社会人になっていく中での認識や目的意識が本人や家族にない中で、支援側のニーズによって宿泊型自立訓練の事業所利用につながり、結果ギャップが生まれ事業所を退所後に自宅に戻るケースがあること」や「2年間という期限が定まっている中で、生きていく力や目標を醸成させていくか」等で、事業所としては「出来るだけ長く単身生活や地域生活ができるように、宿泊型自立訓練の目的等をきちんと伝えたい」とのことでした。

今後は様々な情報を相談支援事業所、就労支援事業所、教育機関、地域移行支援事業所、地域住民の方々等の関係機関で共有し連携することはもちろん、「市内 5 事業所で相談しあいながら連携できればいいのでは」とのことでした。

尚、本日の参加者は 46 名。新規の方は 13 名で、福祉、教育、行政と様々な方々にご参加頂きました。ありがとうございました。今年も北九州市障害者地域生活支援研究会を宜しくお願い致します。



## 【宿泊型自立訓練とは】“ADL の向上を目指し、泊りによる訓練を提供するサービス”

知的障害者又は精神障害のある方に、居室その他の設備を利用させるとともに、家事等の日常生活能力を向上させるための支援、生活等に関する相談及び助言その他の必要な支援を行います。

このサービスでは、障害のある方の積極的な地域支援の促進を図るために、昼夜を通じた訓練を実施するとともに、地域移行に向けた関係機関との連絡調整を行います。 ※利用期間は原則 2 年間（2 年目以降は報酬単価減）

＜対象者＞ 自立訓練（生活訓練）の対象者のうち、日中、一般就労や障害福祉サービスを利用している方等であって、地域移行に向けて一定期間、居住の場を提供して帰宅後における生活能力等の維持・向上のための訓練その他の支援が必要な知的障害のある方または精神障害のある方。

＜サービスの内容＞ 利用者が居室その他の設備を利用しながら、自立した日常生活または社会生活を営むことができるよう、次のようなサービスを行います。

- ・生活訓練
- ・入浴、整容、着替えなどの支援
- ・生活等に関する相談、助言
- ・健康管理（\*WAMNET より引用）



※こちらの議事録は  
北九州市障害者自立支援協議会の  
ホームページでもご覧いただけます。  
<http://kitakyushu-net.shien-c.com/>

